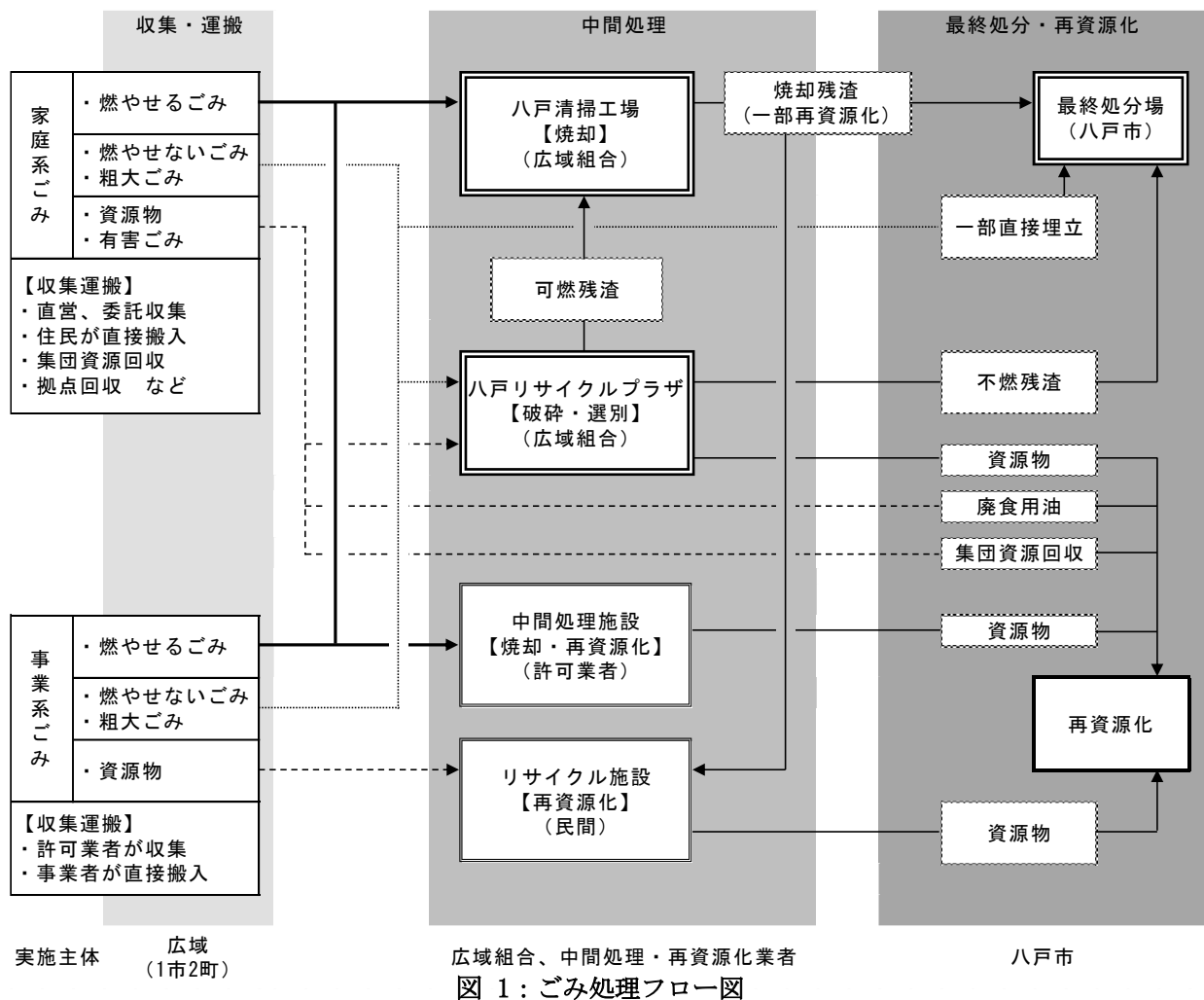


## 一般廃棄物処理施設整備基本構想における処理システムについて

### 1. 現在のごみ処理システム

現在の家庭から出るごみは、各構成市町が、ごみ集積所（ステーション）や有害ごみ等の回収協力店（拠点）から収集し、焼却や破碎・選別処理を行う中間処理施設へ運搬されています。燃やせるごみは八戸清掃工場で焼却され、燃え残った灰（焼却残渣）は、一部が市内の民間業者によりセメント原料へ再資源化され、残りは八戸市の最終処分場で埋立処分されています。燃やせないごみや粗大ごみは、八戸リサイクルプラザで破碎・選別され、鉄やアルミなどの金属を取り出された後、可燃部分（可燃残渣）は八戸清掃工場で焼却、不燃部分（不燃残渣）は八戸市最終処分場で埋立処分されています。紙類や缶・びん・ペットボトルなどの資源物及び乾電池等の有害ごみは、八戸リサイクルプラザで選別され、再資源化業者へ引き渡し、再資源化されています。なお、事業者から出るごみは、事業者が許可業者への委託又は自ら運搬する方法により、広域組合や民間の中間処理施設へ搬入されています。また、焼却や再資源化を行う民間事業者もあり、一部のごみは民間施設で処理されています。



## 2. 基本構想における将来のごみ処理システムの検討について

### (1) 燃えるごみの中間処理について

検 討 案		内 容	検 討 結 果
現行踏襲案		焼却施設を再整備する案	最も経済的。
全量再資源化案		中間処理施設を設置せず燃えるごみの再資源化を実施する案	現行踏襲案に比べ経済面で劣り、現在の技術では全量再資源化は不可能。
民間活用案		民間施設で焼却処理を実施する案	民間の処理能力よりも排出量が多く処理不可能。
現有施設積極活用案		施設の改良・改修・修繕工事等により施既存設を利用する案	将来にわたる施設の能力の維持が難しい。
リサイクル推進案	生ごみの堆肥化施設	生ごみの堆肥化により焼却量を減らす方式	生ごみの分別収集による住民負担増大と焼却単独に比べ経済性が劣る。
	焼却+メタンガス化施設	生ごみの分別収集は行わず、機械選別による減容化とメタンガスによる発電をする案	焼却単独に比べ経済性が劣る。

⇒ 燃えるごみについては現行踏襲案（＝焼却）とし、施設の再整備を実施します。

### (2) 資源物の中間処理について

検 討 案	内 容	検 討 結 果		
		燃やせないごみ・粗大ごみ	びん・かん・ペットボトル	紙・布
現行踏襲案	資源化施設を再整備する案	将来にわたり安定した中間処理が可能。		
民間活用案	民間で中間処理を実施する案	事業者へのヒアリングの結果、処理不可能の回答。	事業者へのヒアリングの結果、採算性がないとの回答。	全量売却が可能なため民間活用が可能。
現有施設積極活用案	施設の改良・改修・修繕工事等による既存施設を利用する案	将来にわたる施設の能力の維持が難しい。		

⇒ 燃やせないごみ・粗大ごみ、びん・かん・ペットボトルについては、現行踏襲案（＝破碎ライン、資源化ライン）とし施設の再整備を実施し、紙・布については、民間活用を実施します。

(3) 焼却残渣・不燃残渣の最終処分について

検 討 案	内 容	検 討 結 果
現行踏襲案	新たな最終処分場を整備する案	民間活用案に比べ経済性が劣る。
全量再資源化案	施設を整備せず埋立処分しない案	現在の中間処理の技術では、焼却残渣や不燃残渣等をゼロできないため採用できない。
民間活用案	民間施設への埋立処分をする案	現行踏襲案より経済的。
現有施設積極活用案	改修工事により既施設を利用する案	浸出水処理施設の増設や地権者との変更協議、延命化効果が小さく、民間活用案よりも経済性が劣る。

⇒焼却残渣・不燃残渣等については、民間活用による延命化を実施します。

(4) 検討結果について

以上のことから、基本構想において将来のごみ処理を実施するにあたり、必要な施設の在り方を以下に示します。

	種 類		検討結果
中間処理	燃えるごみ		現行踏襲案として焼却施設を整備
	資源物	燃やせないごみ・粗大ごみ	現行踏襲案とし破砕・選別施設を整備
		びん・かん・ペットボトル	
		紙・布	民間委託を実施
最終処分	焼却残渣・不燃残渣		民間委託を実施

### 3. 将来のごみ処理システム

基本構想時の検討結果として、新清掃工場は、この図中では焼却施設と破碎・選別施設を併設した施設としています。家庭系ごみの資源物のうち「紙・布」は民間のリサイクル施設へ、新清掃工場から排出される焼却残渣と不燃残渣は民間の最終処分場へ搬入される部分がこれまでの処理体制と大きく変わるところです。

また、基本構想の策定後に施行された「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」に基づき、燃やせるごみとして処理している製品・容器包装プラスチックの再資源化の取り組みを見据えた将来のごみ処理体制のフロー図は次のとおりです。

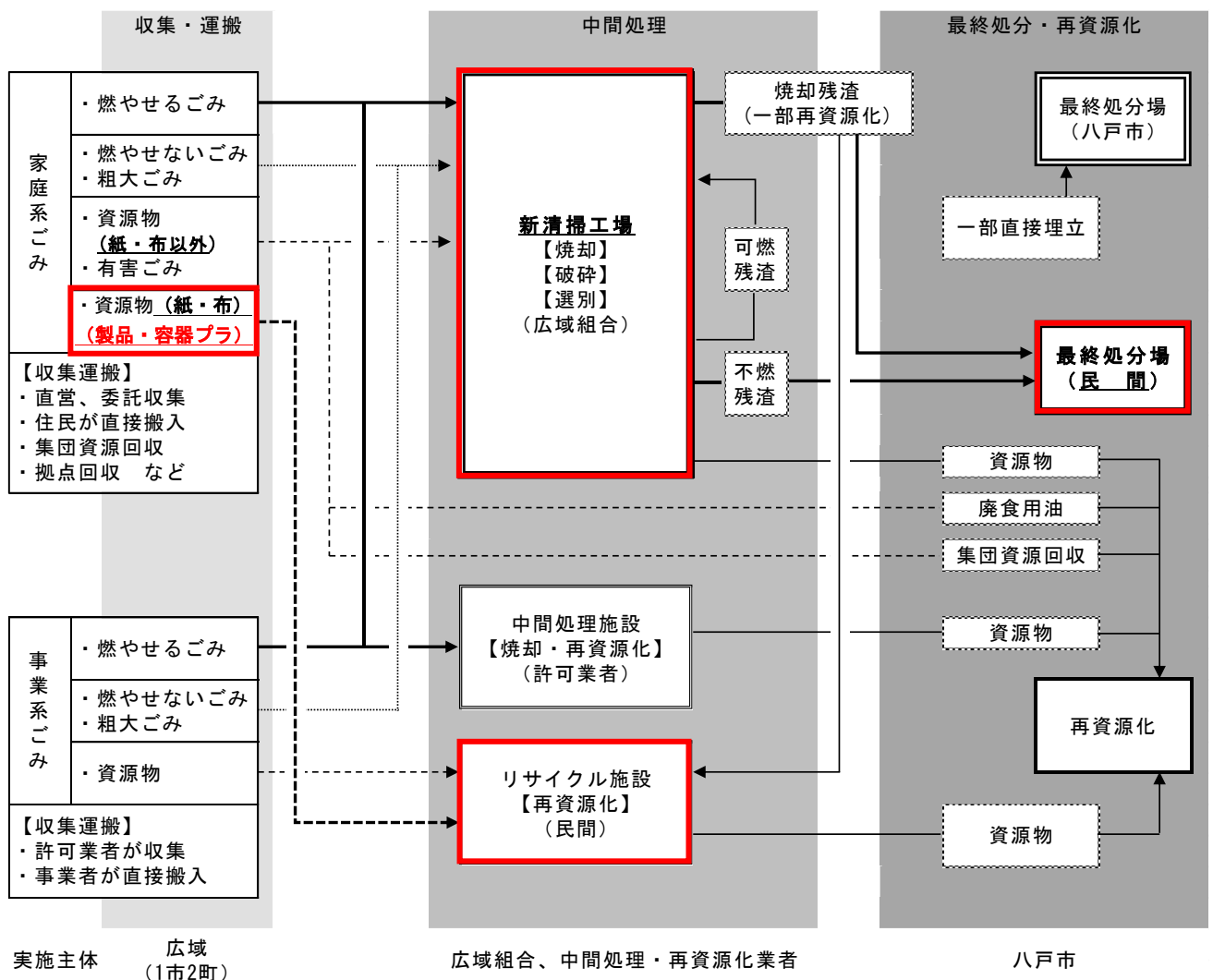


図 2: 「新」 ごみ処理フロー図